

# 国立屏東商業技術学院(台湾)

## 国立屏東商業技術学院(台湾)

島崎由里・坂本美樹・岡田真季

実習場所	台湾屏東にある『国立屏東商業技術学院』
実習期間	2010/03/01~2010/03/26(26日間)(滞在 2010/02/26~2010/03/27)
費用	(日本—台湾) 航空券 (チャージ・TAX等含め) 62000 円 宿泊代：無料 (寮に滞在) 生活費・食費：40000 円
	合計 約 102000 円

### 実習内容

#### 1. 受入機関の状況

この学校には、主に職業高校という高校を卒業した生徒が入学してきます。レベルは学生によって様々でした。屏東ではグループティーチングを行っており、文型、会話、読解、作文と4つの分野があります。また、1年生にかぎっては、ほとんどが媒介語（中国語）で説明をする授業をしています。それ以上の学年は授業によって様々です。

日本に関する授業は他に、日本の地理や歴史などがあります。

#### 2. 実習した授業の報告

##### [1]日語会話 (1年生)

クラス：Aクラス、Bクラス

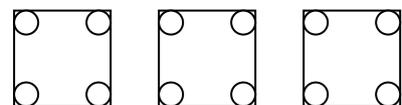
生徒数：Aクラス (25人)、Bクラス (27人)

授業時間：50分×2コマ (1クラス)

レベル：初級レベル

指導教官：劉秋燕先生

黒板



##### (1)第1回目

担当科目：「みんなの日本語」第24課、練習B-1・2・3

実習日：3月15日(月) /5・6・7・8限目

所要時間：40分 (1クラス)

使用教材：①「みんなの日本語 初級I」 ②プリントI・II・III

③レアリア ④名詞の書かれた折り紙 25枚

注意点：1)「くれる」は“自分”か“自分のグループの人”にしか言わない。

2)「貸す」「借りる」の違いをもう一度復習する。

- 反省点：1)言葉で説明するよりも、実際に教師がロールプレイをした方が、学生たちに分かってもらえた。
- 2)時間にとられすぎて、生徒たちがプリントを理解し始めたときに次へ行ってしまった。

## (2)第2回目

担当科目：「みんなの日本語」第25課、練習B

実習日：3月22日/5・6・7・8限目

所要時間：40分（1クラス）

使用教材：①「みんなの日本語 初級Ⅰ」 ⑤ワークシート

- 注意点：1) ロールプレイでプリントのやり方を説明する。
- 2) 規定時間が来ても、状況によってはそのまま続けさせる。

- 反省点：1) 自作文をプリントの問題に入れていなかった。
- 2) 以下で示しているように、3種類の問題があることを説明しなかった。
- ①Q：「たら」→A：「たら」 ②Q：「でも」→「でも」  
③Q：「たら」→「でも」
- 3) プリントが見にくい。例えば今回学習している文型には、その文型の下に線を引くなど改善する必要がある。
- 4) 問題が簡単過ぎたので、早く終わってしまった。
- 5) プリントを作ったあと、自分でそのプリントを生徒の立場でやってみていなかった。

## (3)第3回目

担当科目：「みんなの日本語」第26課、練習B・C

実習日：3月25日/1・2・3・4限目

所要時間：80分（1クラス）

使用教材：①「みんなの日本語 初級Ⅱ」

⑥ワークシート

⑦パソコン

- 注意点：1) ワークシートに自作の文を入れること
- 2) ワークシートを作成したら、まず自分たちでやってみること。
- 3) 今回学習している文型には色を変えたり、線を引いたりして分かりやすくする。

反省点：1) ワークシート第26課-1で、ロジックに合う言葉を選んでもらう



ように説明出来ていなかった。

[2]日語 (1年生)

クラス：1年生全員

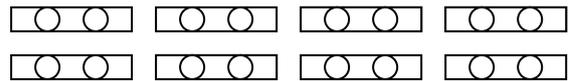
生徒数：52人

授業時間：50分×2コマ

レベル：初級レベル

指導教官：李欣怡先生

黒板



(1) 第1回目

担当科目：「みんなの日本語」第25課、文型1・2、練習A-1・2・3・4

実習日：3月19日/3・4限目

所要時間：50分 (1クラス)

使用教材：「みんなの日本語 初級I」

注意点：「～たら…」には仮定条件と確定条件の2つがあることを絵を描いて分かりやすく説明する。

反省点：1) キューの出し方が曖昧だった。→「せーの」などの掛け声を  
入れる

2) 休み時間に突入してしまい、生徒をソワソワさせてしまった。  
→「ここまでやったら休憩します。」と言ってあげる。

3. 実習以外の活動

[1]学内

1) 講義/毎週月曜日 50分×2コマ 合計4回

第1回目：プログラムと授業システムについての説明

第2回目：台湾の日本語教育の実態について

第3回目：台湾での日本語教師の現状

第4回目：プログラムのフィードバック



2) 中国語/毎週水曜日 50分×2コマ 合計3回

週に一度、実習生向けの中国語の授業がありました。発音に1番苦労しました。最後の週には、授業に出てきた単語ならある程度聞き取れるようになりました。

3) 日本現代文 (4年生) 見学 合計1回

見学した授業では、学生達に日本のインターネットのニュースを読んでもらい、それについてディスカッションをし、発表させていました。実際に学生たちとディスカッションをしてみて、台湾と日本ではインターネットのニュースの形式が違うことや、

考え方の違いを学ぶことができました。

#### 4) 高級会話（3年生）50×3コマ 合計2回

この授業では、学生たちを何人かのグループに分けて、台湾の食文化・教育・政治・伝統文化・歴史・地理・言語・経済産業の中から各自で1つテーマを決めて、発表していました。私たちは学生達の発表を聴いて文の訂正をしたり、コメントしたりしました。

## 〔2〕学外

学校での授業以外にも校外で行われている日本語教育現場に見学に行く機会がありました。

### 1) 高校

私たちの担当の劉先生が週に一回、大学近くの女子高校で日本語を教えており、見学に行きました。その高校では1年時選択授業で日本語を選択でき、40人近い学生が勉強していました。見学内では、実際生徒にインタビューを受ける活動があり、生徒と話す機会がありました。恥ずかしがりながらも一生懸命日本語でコミュニケーションを取ろうとしている姿がかわいかったです。たまに英語で質問されることもあり、その英語の流暢さにびっくりしました。



### 2) 幼稚園

学校近くの千葉英日学校（幼稚園）に見学に行きました。そこでは午前中は日本語の授業が、午後は英語の授業が行われており（学年によって反対）、授業はすべて直接法で行われていました。児童一人一人に日本名と英語名があり、学校内ではネイティブの先生各二人と、アシスタントの各言語が話せる先生各二人がおり、中国語は一切使わないようにして、児童とコミュニケーションをとっていました。早い子は2歳から入園でき、日本語能力試験3級に相当するレベルの児童もいました。また小学生のクラスもあり、学校帰りに勉強しに来ている子もいました。

### 3) 市民講座

屏東市の市民図書館の地下室で行われている市民講座です。年齢もばらばらで、夫婦で受けに来られている方もいました。授業では演歌やブルースを読み、歌う授業をしていました。



### 4) 空中大学

屏東から車で1時間位の所にある、台湾第二の国際都市高雄にある、空中大学（放送大学）に見学に行きました。授業自体は15分くらいの見学だったのですが、そのあと学生と話す機会を設けて頂き、ケーキを食べながら話しました。私が話した学生は、日本に1年以上滞在経験があり、日本人と話しているのと同じスピードで話せました。

ここでは、10代～70代の方が同じクラスで勉強していて、面白いなと思いました。

### 5) 竹田駅

日本統治時代に日本人が建てた駅が、今でも使われており、またその当時台湾人に手厚い看病をした日本人医師の残した本や資料など、日本の図書を集めた、東南アジア最南端の日本の図書館がありました。また日本人が使っていたお風呂や駅の入り口などを残し今でも使っていました。



## 生活

### [1]寮

学校の中に女子寮があるので、今回はここに滞在しました。第1寮と第2寮がありますが、私たちは第1寮でした。第1寮は4人部屋で、ベッドの下に勉強机があり、インターネットを繋ぐことも出来ます。また、トイレとシャワーが付いています。クーラーと扇風機も付いているので、快適に過ごせました。門限もあり、11時までには部屋にいなければなりません。しかし、部屋での点呼が終わった後は自由に散歩することができ、夜遅くまで友達の部屋で遊んでいる学生もいました。

### [2]食事

食事は基本、学生食堂か学校の外で食べます。だいたい1食 60円～150円の間で食べることが出来ます。飲み物はちゃんとろ過された水やお湯が出てくる機械が学校や寮の至る所にあるので、ペットボトルに入れて持ち歩いていました。また、学校の前にセブンイレブンがあり、そこで日本のペットボトルのお茶が買えました。日本のスーパーもあり、日本食も簡単に手に入りました。また台湾の街中にはお茶屋が多く、どの店も沢山の種類のお茶を売っていました。また、どの店も1リットルの大きさの物が普通で、お茶だけでお腹がいっぱいになる事もありました。台湾と言えばタピオカミルクティーが有名で、甘さも調節でき、とてもおいしかったです。

食事はちゃんと選ばないと、ほとんどが甘いので注意が必要です。

### [3] 衛生面

トイレは基本、ペーパーを流すことが出来ません。横にあるゴミ箱に捨てます。また、学校や外にはペーパーを置いてないので、自分で持ち歩かないといけません。

### [4] 学生たちとの交流

今回、寮で生活したので、学生たちと交流する機会がたくさんありました。私は勉強の質問に答えたり、会話の練習相手をしたりしました。3月3日には、日本語学科で歓迎会を開いてくれて、とても楽しいひとときを過ごしました。

ただ、部屋によっては学生たちが押しかけすぎて眠れないという事態が起こったのですが、その後の配慮のおかげでそういった事態はなくなりました。

また休みの日は学生たちに高雄を案内してもらったりしました。

### [5] 交通面

移動はバイクがメインで、台湾ではヘルメットさえしていれば1台のバイクに何人でも乗る事が出来、5人くらいは普通に乗っていました。バスは学校から駅まで23元(約70円)で、タクシーは何人乗っても150元(約450円)でした。しかし、ほとんどの人がバイクを持っており、バスは30分に1台しか来ないので、バイクがないと少し不便な時もありました。

### [6] 気候

だいたい20～27℃くらいの気温で、日本の初夏ぐらいの気候でした。しかし、夜は少し肌寒くなるので羽織るものが必要になるときもあります。

(たまに寒波が来る場合もあるので、長袖は必ず持って行ってください)

### [7] その他

屏東では日本で売っているものがほとんど買えるので、シャンプーなどの日用品を持

っていく必要がありませんでした。

## 観光

土日は完璧自由だったので、少し遠出をすることが出来ました。電車で30分くらいの所に台湾第二の国際都市高雄があり、学生に何度か連れて行って貰いました。高雄は最近地下鉄が出来、とてもきれいで、分かりやすかったです。日本の店や、今は台湾も韓国ブームなので韓国の店などがあり、買い物好きの人には一日いても飽きない所だと思いました。また、台湾では至る所で夜市があり、高雄の夜市にも三回ほど連れて行って貰いました。食べ物の屋台から服など日用雑貨の屋台まであり、とても賑わっていました。また、屏東から電車で1時間半の所に台南という町があり、そこにはスペインやオランダ統治時代の建物が多く残っており、歴史的な建物を見たいと学生に頼んだら応用日本語学科の4年生が台南でバイクを借りてくれて、一日台南観光をすることが出来ました。その他にも、暇な日がないくらい学生に誘われ色々な所に遊びに行きました。台湾の人はとてもフレンドリーで親切な方ばかりでした。何処に行きたい、何を食べたいといつも聞かれ、希望した所に連れて行ってくれたりといつも学生にお世話になっていました。



## 感想

今回台湾の屏東商業

技術学院で実習させて頂いて、改めて自分

に何が足りないのか、そしてこれからどう勉強していけばいいのかを知ることが出来ました。また、台湾はとても親日家で、先生方をはじめ、学生や職員の方々、そしてそのほかの多くの方々にお世話になりました。日本語教師をするなら絶対に台湾がいいと思います。(坂本美樹)





正直に言いますと、最初このプログラムに参加すると決めてからもずっと不安でいっぱいでした。中国語は全く分からないし、本当に日本語を教えることが私に出来るのだろうか。でも、そんな悩みや不安は台湾に行くとなくなっていました。たくさんの先生方や生徒たちが気にかけてくれ、励ましてくれるだけで、いつも「よし、頑張ろう!」と思わせてくれました。授業は失敗ばかりでしたけど、失敗したからこそもっとこうすれば分かってもらえるんだと、失敗しなければ分からないことがたくさんありました。きっと今回分かったこと、気づけた

ことは、今後の日本語教育に役立てていきたいです。今だから言えることは、本当に台湾に行けて良かった。この一言です。私たちと出会った全ての人に感謝しています。この場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。またぜひ台湾の屏東へ行きたいと思います。

最後になりましたが、関わってくださり支えてくださった先生方に心からお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。(島崎由里)

今回私はJ I Pの参加条件を満たしていなかったのですが、J I Pに参加する事が出来ました。力不足なのは分かっていたのですが、実際に行ってみると上手く学生の質問に答えられなかったり、自分の話している日本語が正しいのか不安になり、学生に合わせて簡単な話し方をしようと思えば思うほどおかしな日本語になり、身をもって自分が力不足な事を実感できました。しかし、そんな私たちを快く受入れ、失敗ばかりだったけど実習もさせて頂き、感謝しても仕切れないほどの体験をする事が出来ました。また、台湾に来て一番思ったのは、日本人がまったくと言っていない町に行く事は自分が日本人代表になる事で、自分の一つ一つの言動が学生に与える事を意識して行動しなくてはならないと思いました。今ではテレビやインターネットの普及により日本の番組を普通に見る事ができ、生徒はそこから日本語を聞いたり覚えたりしていました。しかし、番組内の日本語を間違った形で使っている学生もいて、そんな中実際に来た日本人に興味を持ちその言動を真似る学生もいました。今回の体験で将来日本語教師として働きという気持ちは一層強くなりました。それと同時に自分が日本人の代表になる場面に遭遇した時にちゃんと行動できるか、日本の事についてもまだまだ勉強しないといけないと再確認する事が出来ました。

また、私が台湾に行って印象に残った事は、台湾は日本の統治時代が50年以上あり日本人が建てた建物が今でもあり、実際学校内のヤシの木は日本人が植えたものが今でも生えているということでした。台湾の方は日本人が統治時代にした事に対して感謝している人が多く、親日家が多いと台湾に行ってから知りました。歴史を知らない私にとっては日本人が統治時代台湾でどんな事をしたのか、その事が台湾人にどの様な印象を残したのか

わからず、ただ日本語を教えるのではなく、その土地の歴史も踏まえた日本語教育が大事だなと思いました。今回、私たちを受け入れてくださった、国立屏東商業技術学院の先生方、応用日本語学科の学生たちには言葉に出来ないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。台湾で体験したこと、上手くいったこと、失敗したこと、全てこれからの私の日本語教育の勉強に役立てたいと思います。1ヶ月間有難うございました。

(岡田真季)

